

Recovery Manager 入門 ～研修受講後テスト 解答～

■問題1【RMAN 概要】

RMAN の特徴について、正しいものをすべて選びなさい。

- 非一貫性バックアップ（オンライン・バックアップ）取得中、バックアップ・モードに切替えなくてよい。
- 不要なバックアップ・ファイルを自動的に削除できる。
- バックアップ情報はデータ・ディクショナリに記録されている。

<テキスト掲載箇所>1-1 ～ 1-2

■問題2【RMAN のアーキテクチャ】

RMAN のアーキテクチャについて、以下の説明文の空欄に適切な用語を選びなさい。

【A：④】から【B：⑤】に接続し、バックアップ・リカバリ操作が実行できます。バックアップ情報などは【C：①】に格納され、物理的には【D：⑥】に保持されます。【D：⑥】が破損すると RMAN を使用してリカバリできないことが考えられるため、多重化やバックアップ、【E：②】を含めた構成を検討します。

- ① RMAN リポジトリ ② リカバリ・カタログ ③ データファイル
- ④ RMAN クライアント ⑤ ターゲット・データベース ⑥ 制御ファイル

<テキスト掲載箇所>1-3 ～ 1-4

■問題3【RMAN によるデータベースへの接続とチャンネルの割り当て】

RMAN によるデータベースへの接続とチャンネルの割り当てについて、正しいものをすべて選びなさい。

- 接続にはSYSDBA権限が必要である。
- チャンネル名は必ず指定する。
- CONFIGURE CHANNELコマンドを使用すると、変更したチャンネル設定を保存できる。
- LISTコマンドを使用すると、チャンネルの設定情報を確認できる。

<テキスト掲載箇所>2-1 ～ 2-6

■問題4【RMANバックアップの特徴】

RMANバックアップの特徴や利点について、誤っているものをすべて選びなさい。

- 未使用ブロックをスキップしてバックアップできる。
- 1つのバックアップ・セットに含まれるデータファイルは1つである。
- 非一貫性バックアップ（オンライン・バックアップ）はマウント状態で行う。
- TAGを使用すると、バックアップ・セットに対してわかりやすい名前を定義できる。

<テキスト掲載箇所>2-7 ~ 2-8

■問題5【RMANバックアップの特徴】

RMANでバックアップできないものをすべて選びなさい。

- アーカイブREDOログ・ファイル
- tnsnames.oraファイル
- SPFILE
- init.oraファイル

<テキスト掲載箇所>2-7 ~ 2-8

■問題6【増分バックアップの特徴や利点】

増分バックアップの特徴や利点について、正しいものをすべて選びなさい。

- ベース・バックアップとしてマルチレベル増分バックアップを最初に取得する。
- ブロック・チェンジ・トラッキング機能を使用するとリカバリ時間を短縮できる。
- REDOを適用するよりも高速にリカバリできる。
- バックアップ・サイズはRMANで取得した通常のバックアップに比べて大きくなる。

<テキスト掲載箇所>2-13 ~ 2-14

■問題7【RMAN 使用時の制御ファイルの特徴やバックアップ】

RMAN 使用時の制御ファイルの特徴やバックアップについて、正しいものをすべて選びなさい。

- 制御ファイルの自動バックアップが失敗すると、インスタンスが異常終了する。
- 制御ファイルのバックアップ先を指定する時は変数「%U」を指定する必要がある。
- SYSTEM表領域をバックアップすると、自動的に制御ファイルもバックアップされる。
- RMANリポジトリが上書きされないよう、RMANリポジトリの保存期間を設定できる。

<テキスト掲載箇所>2-21 ~ 2-24、2-39 ~ 2-40

■問題8【RMAN を使用したバックアップの保存方針】

RMAN を使用したバックアップの保存方針について、誤っているものをすべて選びなさい。

- REPORT OBSOLETEコマンドを使用して不要なバックアップを確認できる。
- 保存方針を無効化する場合は、CLEARコマンドを使用する。
- 世代数で保存したい場合は、REDUNDANCYで設定する。
- バックアップ後に何日間保存するかをRECOVERY WINDOWで設定できる。

<テキスト掲載箇所>2-33 ~ 2-36

■問題9【RMAN を使用したデータファイルのリカバリ】

RMAN を使用したデータファイルのリカバリについて、以下の説明文の空欄に適切な用語を記述しなさい。

ユーザーデータ用表領域に障害が発生した場合、【A : RESTORE】コマンドを使用して、最新のバックアップから適切にリストアできる。リストア後は【B : RECOVER】コマンドを実行すると自動的に REDO が適用される。

ただし、Oracle 11gR2.0.2 までは【C : SYSTEM】表領域 や UNDO 表領域に障害が発生した場合は、データベースを【D : マウント】状態にしてリカバリする必要がある。

<テキスト掲載箇所>3-1 ~ 3-10

■問題 10 【RMAN を使用した制御ファイル、オンライン REDO ログ・ファイルのリカバリ】

RMAN を使用した制御ファイル、オンライン REDO ログ・ファイルのリカバリについて、正しいものをすべて選びなさい。

- 制御ファイルのリカバリ時に USING BACKUP CONTROLFILE 句は必要ない。
- オンライン REDO ログ・ファイルの状態を確認するには、RMAN プロンプト上で V\$LOG ビューを使用する。
- CURRENT のオンライン REDO ログ・ファイルが全損した場合、SET UNTIL コマンドでリカバリ完了時点を指定する。
- 制御ファイルのリカバリは、明示的にバックアップ・ファイル名を指定することが推奨される。

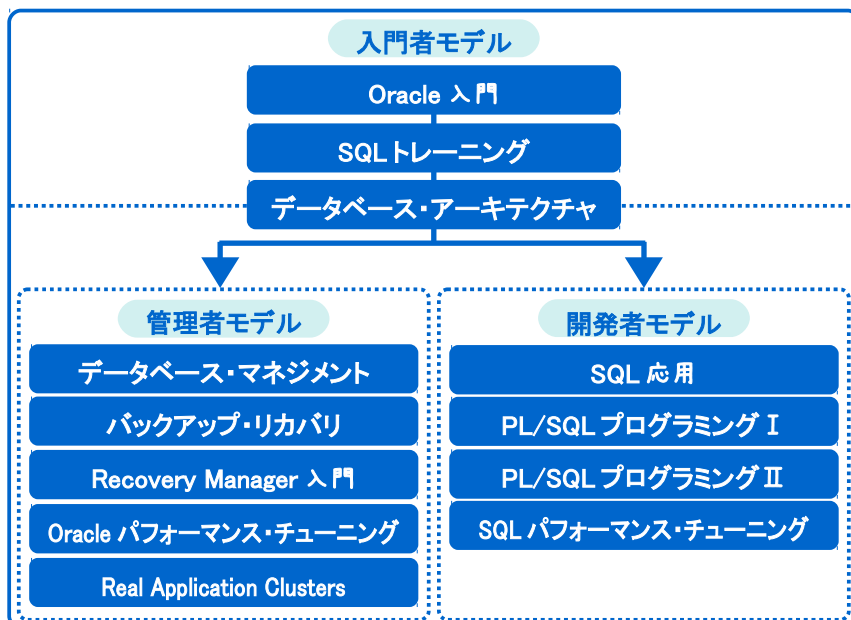
<テキスト掲載箇所>3-11 ~ 3-20

Information

アシスト Oracle 研修内容の詳細については下記ページをご覧ください。

<http://www.ashisuto.co.jp/ojt/course/oracle/>

アシスト Oracle 研修受講モデル



<入門者モデル>

Oracle の基本構造や SQL の基礎構文など、Oracle の全体像を理解できます。新入社員や異動された方など、これから Oracle に携わる方にぴったりのモデルです。

<管理者モデル>

管理者として必要な運用管理タスクの理解やバックアップリカバリ、システムチューニングの技術を習得できます。

<開発者モデル>

Oracle を使用した開発に必要な PL/SQL の習得、索引や SQL 記述方法などによる SQL チューニング技術を習得できます。

※研修内容についてご質問がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

アシスト教育部：【TEL】0120-874-337 / 【FAX】0120-874-437/ 【E-Mail】edusup_ora@ashisuto.co.jp